

昭和57年 WHEEL HOUSE, CONTROL ROOM

1. 「HITACHI VENTURE」

- 「船の科学」1982-5 (Vol.35, No.5) より採取
- ・世界最大の DW 260,000 LT 鉱石運搬船
 - 「HITACHI VENTURE」 DWT 267,889 t
ブラジル・ヨーロッパ間 航行。
 - ・船主 : Chivalry Carriers Inc. (Liberia)
 - ・建造 : 日立造船(株) 有明工場
昭和57年1月8日 竣工

- ・1) は本船全景

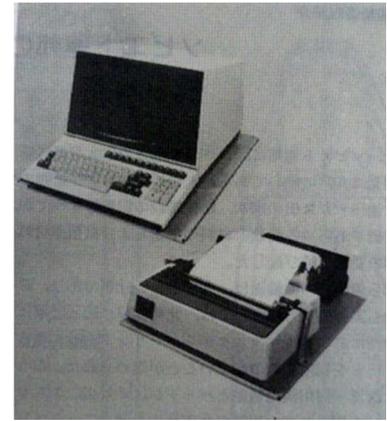
1) W57-01 HITACHI VENTURE 本船全景



2) W57-02 航海システム 3) W57-03 ディスプレイ等

- ・2) は自動航海システム 日立造船と山下新日本汽船の共同開発品(トランソライン・マーク)
- 航海時間の短縮と燃費節減を図っている。
- ・3) は上記システムのディスプレイとプリンター

- ・本船にはマイコンを使用したデータ・ロガーが装備されていて、マイコンを使用したシステムが増えている。



2. 「龍田丸」 「船の科学」1982-6 (Vol.35, No.6) より採取。

- ・低温・常圧式 70,000 m³, DWT 45,500 t L P G 運搬船「龍田丸」、船型はパナマックス。
- プロパン、ブタンの2種の貨物を積み分ける。
- ・船主 : 日本郵船(株)
- ・建造 : 日本鋼管(株) 津製作所
昭和57年3月29日 竣工
- ・4) は本船全景、5) は操舵室、6) は荷役制御室。

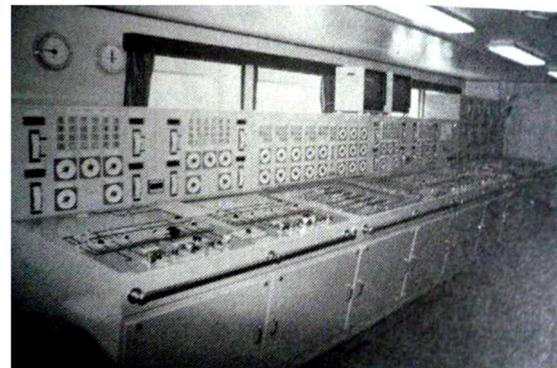
4) W57-04 龍田丸 本船全景



5) W57-05 龍田丸 操舵室



6) W57-06 龍田丸 荷役制御室



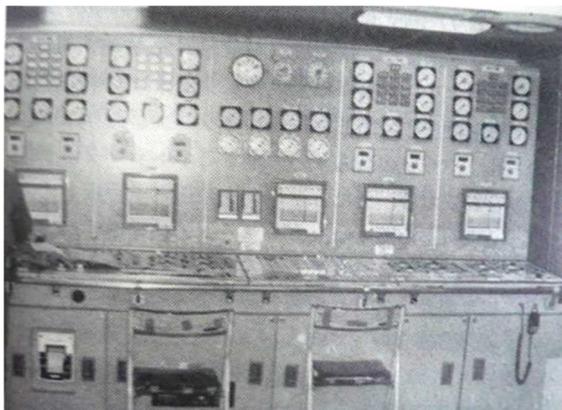
3. 「日山丸」 「船の科学」1982 - 8
(Vol.35, No.8) より採取。

- ・43,500 m³ 型低温式LPG運搬船「日山丸」
DWT 30,466 t 方形独立タンク方式、日本で初めて中間冷却方式再液化装置を搭載。
- ・船主 : 日正汽船(株) 山下新日本汽船(株)
- ・建造 : 三菱重工業(株)長崎造船所
昭和57年5月21日 竣工
- ・7) は本船全景、8) は Cargo Control Room、
9) は無線室。

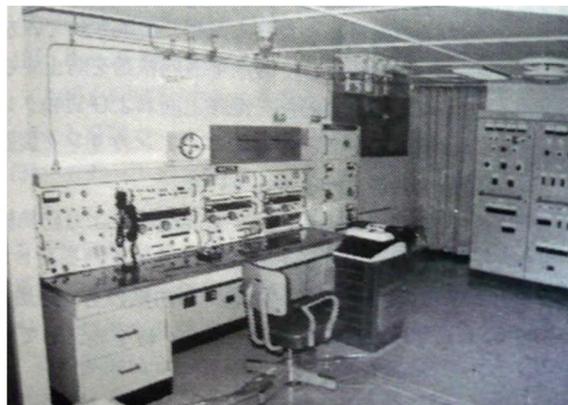
7) W57 - 07 日山丸 本船全景



8) W57 - 08 日山丸 Cargo Control Room



9) W57 - 09 日山丸 無線室



4. 「MOBIL SEARCH」 「船の科学」1982 - 10 (Vol.35, No.10) より採取。

- ・世界最大・最新鋭の輸出物理探鉱船「MOBIL SEARCH」 DWT 1,420.0 Lt 海底下の地層の状況を調べ、海底石油などの埋蔵地層を探索するもの。
4機2軸(MR 3,000PS +1,800PS / 1軸当たり)
- ・船主 : Mobil Tankers (U.S.A.) Inc.
- ・建造 : 三菱重工業(株)下関造船所
昭和57年6月30日 竣工
- ・10) は本船全景、11) は操舵室、12) は機関制御室。

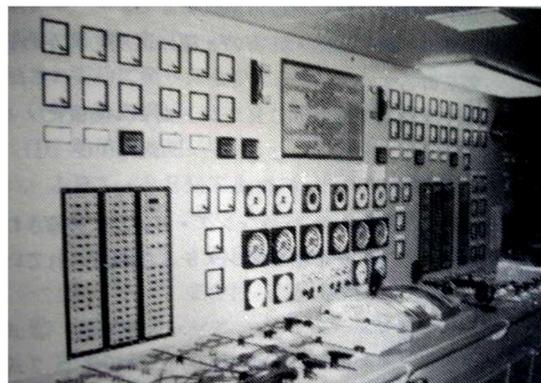
10) W57 - 10 MOBIL SEARCH 本船全景



11) W57 - 11 MOBIL SEARCH 操舵室



12) W57 - 12 MOBIL SEARCH 機関制御室



5. 「新豊丸」 「船の科学」1982 - 11 (Vol.35, No.11) より採取。

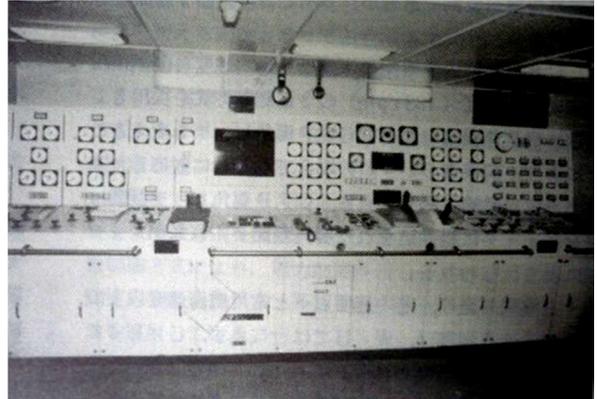
- ・超省エネルギー、バルクキャリア 209,000DWT 「新豊丸」、鉄鋼原料油槽船、主としてオーストラリアの鉱石や石炭の輸送に従事。省エネ対策としては、低燃費低速ディーゼル機関2機1軸方式の採用、高性能排ガス発電プラントの採用、大直径の三菱-カメワ可変ピッチプロペラの採用、船橋-居住区間吹き抜け構造採用など。
- ・船主 : 昭和海運(株) ・建造 : 三菱重工業(株)長崎造船所 昭和57年8月25日 竣工

- ・13)は本船全景、14)は機関制御室、マイコンを使ったデータ・ロガーを採用、CRTにて異常、計測データのトレンド表示、排ガスの棒グラフ表示等を行っている。操舵室にもCRTを設け、集中監視が出来るようになっている。

13) W57 - 13 新豊丸 本船全景



14) W57 - 14 新豊丸 機関制御室



6. 「邦英丸」 「船の科学」1982 - 11 (Vol.35, No.11) より採取。

- ・超省エネルギー鉱炭船「邦英丸」、DWT 208,739t 世界で初めての「2サイクル低速ディーゼル機関 1機1軸ギアダウン」採用、世界最大の11m直径、3段可変ピッチプロペラの採用、風圧抵抗の少ない構造の採用など。
- ・船主 : 日邦汽船(株)
- ・建造 : 川崎重工業(株)坂出工場 昭和57年9月7日 竣工

15) W57 - 15 邦英丸 本船全景

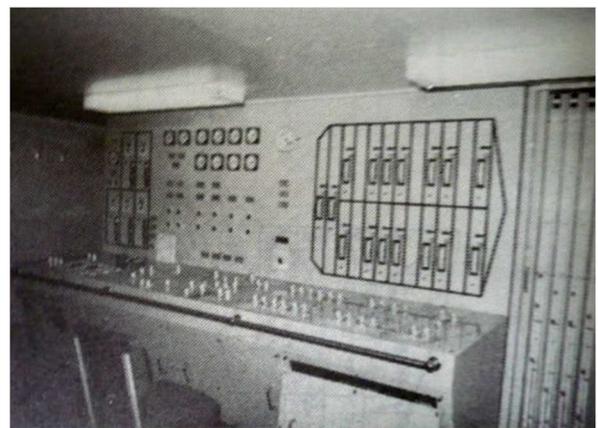


- ・15)は本船全景、16)は操舵室、展望のよい操舵室とある、17)は Ballast Control Console.

16) W57 - 16 邦英丸 操舵室



17) W57 - 17 邦英丸 Ballast Control Console



7.「しらせ」 「船の科学」1983 - 2 (Vol.36, No.2) より採取。(1982 - 4 (Vol.35, No.4) も参照)

- ・南極地域、観測砕氷艦「しらせ」DWT 1,000t
南極大陸に観測隊員及び物資の輸送とその途中の洋上観測を行う。

推進方式ディーゼル電気推進(AC - R - DC システム)

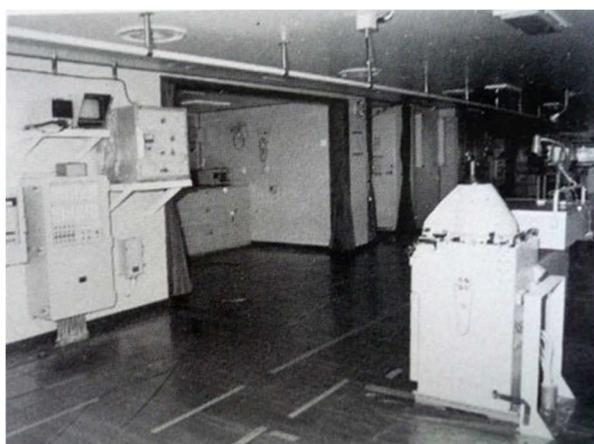
- ・船主 : 防衛庁 (R: Rectifier)
- ・建造 : 日本鋼管(株) 鶴見製作所
昭和57年11月12日 竣工

- ・18) は本船全景、19) は操舵室、20) は船橋内ヒーリング装置及びコントロール・パネル

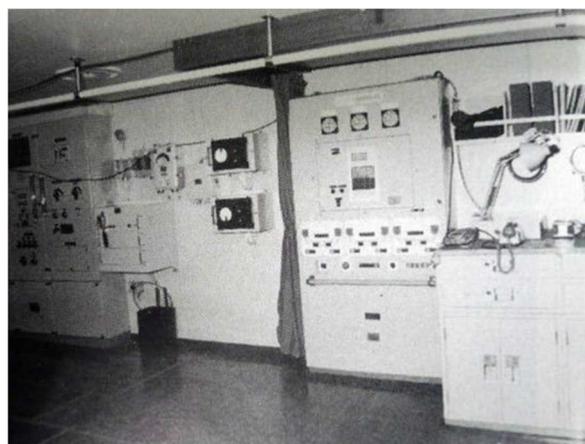
18) W57 - 18 しらせ 本船全景



19) W57 - 19 しらせ 操舵室



20) W57 - 20 しらせ 船橋内の機器



8.「大晃丸」 「船の科学」1983 - 3 (Vol.36, No.3) より採取。

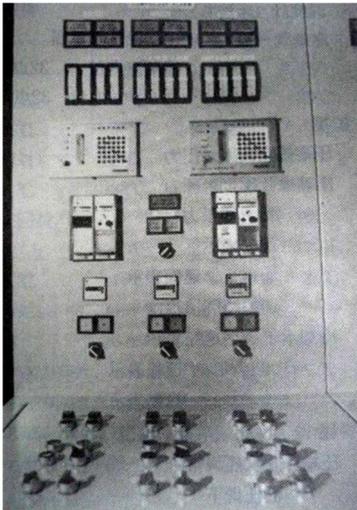
- ・31万CF型省エネ冷凍運搬船「大晃丸」 DWT 6,403.6t
省エネ対応としては、スリム船型、省エネ、省力型冷凍装置の採用、主機、発電機、ボイラーに粗悪油使用など。
- ・船主 : 枅本海運産業(株) ・建造 : 四国ドック(株) 昭和57年12月6日 竣工。

- ・21) は本船全景、22) は圧縮制御部(冷凍装置用)、23) は冷凍監視盤、24) は温度制御部(冷凍装置用)、25) はデータロガー(冷凍装置用)である。

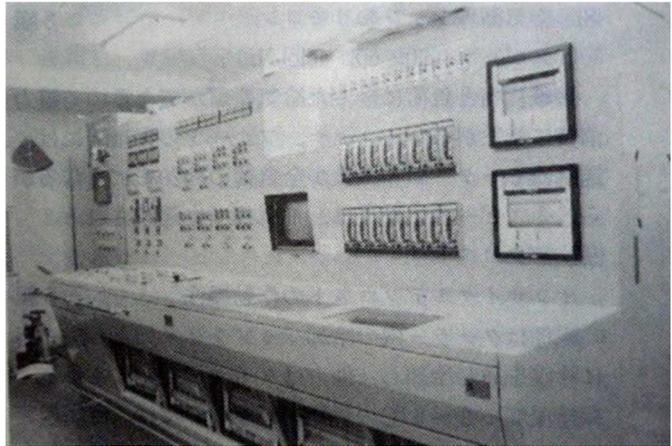
21) W57 - 21 大晃丸 本船全景



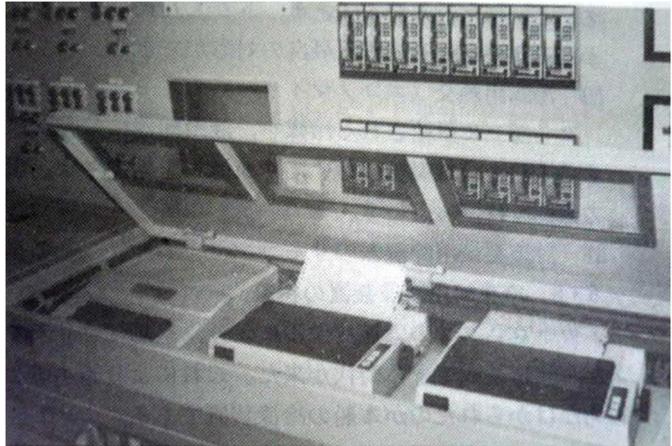
22) W57-22 大晃丸
圧縮制御盤



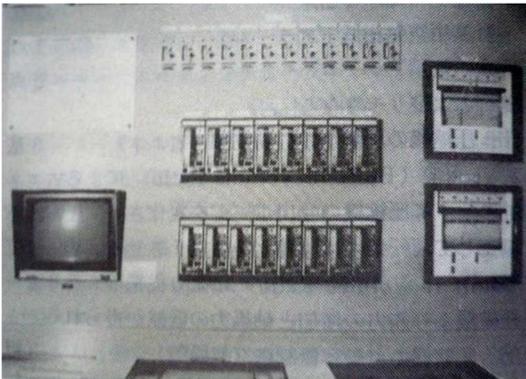
23) W57-23 大晃丸 冷凍監視盤



25) W57-25 大晃丸 データロガー



24) W57-24 大晃丸 温度制御盤



9. 「PHILMAC VENTURE」 「船の科学」1983-4 (Vol.36, No.4) より採取。

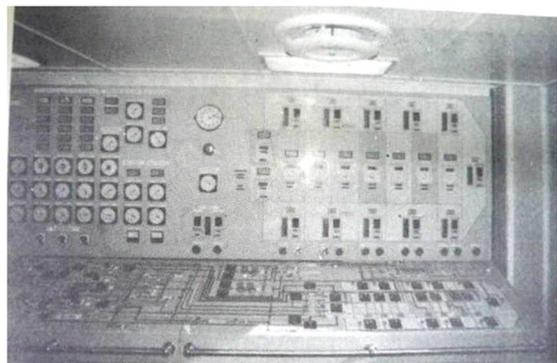
- ・40,000 DWT 型高粘度・高比重原油運搬船「PHILMAC VENTURE」DWT 40,794 t
ベネズエーラ 英国間で、アスファルト分の多い”MONGAS” Crude Oil の輸送に従事。
- ・船主 : Philmac Oils Limited / Philmac Panama Incorporated.
- ・建造 : 三菱重工業(株)長崎造船所 昭和57年12月20日 竣工

- ・26) は本船全景、27) は荷役制御盤で、荷役制御室は上甲板を見渡せるA甲板右舷に設けられた。
- ・28) は主機制御卓で、CRT表示が採用され、監視制御の容易化が図られている。
- ・29) は機関制御室内の主機関制御卓。

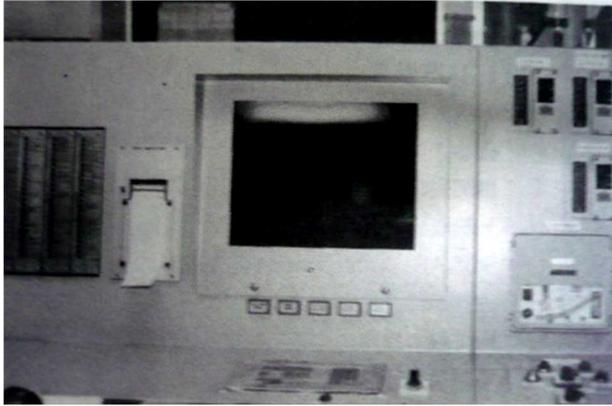
26) W57-26 PHILMAC VENTURE 本船全景



27) W57-27 荷役制御盤



28) W57-28 主機関制御卓のCRT表示



29) W57-29 機関制御室内の主機関制御卓



[メモ]

- 1) 世界最大の鉾石運搬船 DWT 267,000 t 「HITACHI VENTURE」が建造された。
- 2) この頃から、コンピュータを使用した造船各社独自の航海システムが開発された。トランソライン・マーク（日立造船）、TONAC (Total Navigation System、三菱重工業)、IHI Data Bridge など。
- 3) この年も省エネルギー対策が多くの船に取り入れられた。前年から重なる項目も多いが、低燃費低速ディーゼル、大直径C P Pの採用、風圧抵抗の少ない船橋構造など。
- 4) 珍しい船としては、物理探鉾船、南極地域観測砕氷艦、高粘度・高比重原油運搬船など。